

日本医療研究開発機構臨床研究等 ICT 基盤機構築研究事業  
「MedicalArts の創成に関する研究(外科、がん、看護、リハビリ等の新たな医療技術やソフトウェアの開発)」  
「クラウド型広域調剤情報共有システムの構築と有効性・安全性の検証」  
平成 29 年度第 2 回班会議議事録

日時：平成 30 年 2 月 2 日(金)17 時 00 分～19 時 30 分

場所：五島中央病院 講義室

出席者：別紙参照

1. 説明内容

- 1-1) 五島中央病院長の村瀬邦彦様より、挨拶があった。
- 1-2) 長崎大学離島医療研究の小屋松助教より、「概要説明」について説明があった。
- 1-3) 五島市国保健康政策課の出口課長と長崎大学離島医療研究所の大久保補佐員より「五島市調剤情報共有システム運用管理要綱の制定と最新の同意状況」について説明があった。
- 1-4) 五島薬剤師会の菅原会長より、「抗インフルエンザ薬処方情報の提供についてのアンケート調査」について説明があった。
- 1-5) メディカルアイ株式会社の山口社長より、「あじさいネットとの接続における運用課題と二次利用データベース作成時の課題」について説明があった。
- 1-6) 長崎大学離島医療研究所の前田教授より、「ロードマップ」について説明があった。
- 1-7) 栃木医療センターの矢吹先生より「ポリファーマシーを考える～その現状から介入まで～」について特別講演があった。

## 質疑応答等

- ・あがってきたインフルエンザの情報をどのようなルートで浸透させていく考えなのか。  
→現在、FAX やスマートフォンで情報を提供している。FAX を送信している施設に周知徹底する。保育関係や学校関係などの方々に話をしていく。
  
- ・テレビで長崎県内のインフルエンザ流行の警報が発令されていたが、五島市を除くと出ていた。これは、このシステムでのインフルエンザの状況を市民の方が意識しているからではないかと思うが、どう評価しているのか。  
→因果関係は難しいが、注意喚起の手段の一つとしてこのシステムが使用されているのであれば、有効なシステムではないかと思う。
  
- ・患者さんの溜まっている薬剤を薬局で利活用できるのか。法律的にはどうなのか。  
→有効期限内であれば、再調剤しているところもある。法律的にも問題なし。
  
- 医療施設は割と保健衛生概念は発達しているが、他の福祉施設などがインフルエンザ対策についてかなり行動しているようなので、もっともっと効果が上がるのではないかと感じてきている。
  
- 高齢者が増えていったときに、多剤の患者さんも増えると思うので、ポリファーマシーへの取り組みは大事なことだと思う。
  
- 今シーズンから始めたスマートシステムだが、毎朝チェックしないとその日が始まらない感覚になってくる。皆さんに啓蒙して登録して頂きたい。一旦見だすと見ないといけなような気になってくる。そのような意識づけが一番の予防になると思う。

総評：AMED 桑野 友彰

同意率が上がっているところや、五島市と連携してデータがしっかり活用できる環境を作れているところが非常に素晴らしい。引き続き応援していきたい。